

# まじい

No.37



## 〃新年を迎えて〃

「農政新時代」

新たな局面を迎えている。  
生産する農家が真に望む  
ものは何であろうか。

地道にコツコツ積み続ける農家に「農業を続けてよかった」、農業を担う若人に「農業で頑張りたい」と思わせるような農業の新時代を期待したい。

(農業委員 丸山晃聖)

【写真は羽黒・出羽三山神社で大晦日から元日にかけて行われる神事「松例祭(しょうれいさい・国重要無形民俗文化財)」で焼かれる『大松明(おおたいまつ)』です。

手向集落の若者衆らによって10月から準備され、祭りの前日に完成します。この大松明はツツガムシをかたどったものと言われ、神事では若者衆が競って焼き払います。】



年頭の「あいさつ」

地域農業の発展を目指して



鶴岡市農業委員会

会長 三浦伸一

新年あけましておめでとうございます。皆様にはご健勝にて新年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。

昨年の水稲の作柄状況は庄内においても「一〇三三」のやや良となり、品質についても一等米比率が98%程度で良好でありました。また、主食用米も飼料用米を中心に需給調整が全国的に進み、二年連続で作付過剰が解消されて相対取引価格も上昇し、低米価からの回復となったことからひと安心といえそうです。

しかしながらT P P協定の動向と30年産からの米政策の大きな見直しを前にし

て、今後の稲作農業の情勢は予断を許さないと考えられます。米の産地である本市としては米価の上昇と安定生産が一番の望みであり、鶴岡産米の需要量確保の強化と、水田をフル活用し、園芸作物の推進による複合化が経営の安定につながると思えます。

さて、昨年四月一日より改正農業委員会法が施行されましたが、農業委員と新たに設置される農地利用最適化推進委員が一体となって農業委員会業務を担うこととなります。今回の改革の主眼は、農業委員会の任務である担い手への農地の利用集積や集約化、

遊休農地の発生防止や解消への取り組み、そして新規就農者の参入促進など「農地利用の最適化」が最重要責務となっております。また農業委員会としては施策の改善に向けた「具体的な意見の提出」が義務付けられました。果たすべき責務を再認識して、農業者の付託にこたえていく覚悟であります。農業委員会組織の理念である「かけがえのない農地と担い手を守り、力強い農業をつくる懸け橋」となるため、担い手の育成支援と農業・農村振興計画「つるおかアグリプラン」の推進にむけて、市当局や関係団体と一緒に、本市の農業を今以上に活力あるものにするためにも、農業委員、職員が一丸となって頑張っていきたいので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。年頭の挨拶と致します。

山形県農業委員大会が  
開催されました

来年度は鶴岡で開催

山形県農業委員大会が10月28日、新庄市民文化会館を会場に、県内の農業委員及び農地利用最適化推進委員約七百名が参加して開催されました。

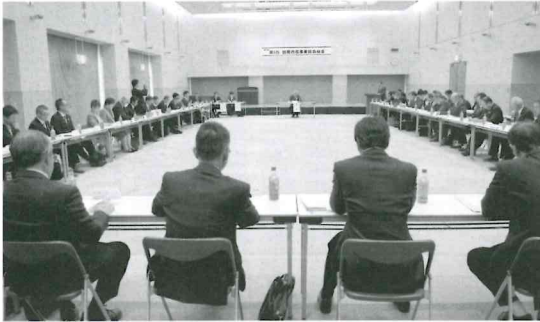
大会ではT P P協定関係の国内対策の強化等、六つのスローガンの基、提案された三議案全てが原案通り可決されました。

三浦会長が農林水産大臣表彰・富樫孝弘委員が永年勤続表彰を受賞

今大会では、三浦伸一会長が多年にわたり農地行政並びに農業振興に功績があつたとして農林水産大臣表彰を受賞し、吉村美栄子山形県知事から賞状を手渡されました。また富樫孝弘委員が永年の功績を称えられ、農業会議会長表彰を受賞されました。



大会の最後には参加者全員で「ガンバロウ」を三唱し、三浦会長が次期開催地代表あいさつで鶴岡市のPRをして閉会しました。



# 第5回定例総会を開催

## 建議・要望等を審議

建議要望活動は農業委員会の重要な活動のひとつであり、現場の声などを行政に反映してもらうための取り組みです。

鶴岡市農業委員会第5回定例総会が10月26日、出羽庄内国際村ホールを会場に開催されました。

今回の総会では、農業委員会法改正に伴う委員定数等の改正要望のほか、5件の建議・要望が議事として上程されました。

発議者の主旨説明に続き、慎重審議を行った結果、全て原案通り可決されました。今総会に提案されました議案は次のとおりです。

- 鶴岡市農業委員会委員定数等の改正について
- 平成29年度鶴岡市農業振興施策予算に関する建議書（鶴岡市長あて）
- 2018年産米からの生産調整見直しにかかる要望書（農林水産大臣あて）
- 経営体育成支援事業に関する要望書（農林水産大臣あて）
- 鶴岡産そばの地産地消に関する要望書（鶴岡市長あて）



■ 農業を軸とした異業種の女性のマンパワーづくりに関する要望書（鶴岡市長あて）

なお、総会終了後は全員協議会が行われ、研修として市農林水産部長を講師に、「今後の土地改良事業の方向性」と「食文化創造都市としての今後の取り組み方針」について受講しました。

○ 決議された建議・要望書は農業委員会のホームページでご覧いただけます。



### 榎本市長へ建議・要望書を提出

総会において決議された建議・要望書は、11月1日に会長以下5役と女性農業委員4名で榎本政規鶴岡市長を訪問し、要望主旨等の説明を行いながら提出しました。

榎本市長からは、「このたびの要望については重要な事項であると認識してい



る。これから予算編成の時期に入るので、農業委員会の考えを尊重しながら、しっかりとやっていきたい。」とのお話がありました。

農業委員会では、今後も現場の声を市及び国・県等の関係機関に伝え、農業者の皆さんが今後も意欲と希望を持って取り組めるよう活動してまいります。



農業振興・担い手専門委員会では、担い手育成の一環として、山形大学農学部学生との交流事業を行っています。4回目となる今年度は青年就農者を加え、10月19日に女性農業者のほ場2か所の見学と鶴岡市内第三学区コミュニティセンターで意見交換会を行いました。

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

鶴岡市内を出発した2台のマイクロバスは、青年就農者6名、山形大学農学部学生16名と農業委員16名を乗せ、鶴岡市内から南へ向かう。今回は女性委員のほ場の見学と経営スタイルを聞く。

まず伊藤委員(熊出)のほ場で月山ワインの原料であるヤマソービニヨン畑とさくらんぼ園を見学した。そのほか庄内柿、水稲を栽培しているとのこと。経営のスタイルやそれぞれの気にかけて行っているところや苦労話などを伺った。



伊藤由紀子委員のぶどう畑

次に重松委員(西荒屋)のほ場を見学。重松委員はぶどう、庄内柿、桃、さくらんぼ、枝豆、浅葱と水稲を栽培とのこと。ちょうど白ワインの原料となる甲州の収穫中であつた。また場所を替え柿畑で樹上脱渋の柿を試食させてもらいながら話を伺った。



「農業振興・担い手専門委員会」活動報告

女性農業者のほ場見学会・情報交換会

青年就農者、山形大学農学部生と農業委員の交流会



重松美鈴委員の柿畑

お二人とも先代から受け継いだ果樹栽培を拡大、高度化している点が印象的だ。また青果は直売がメインとのこと。果樹栽培、直販で成功しているのは女性ならではの気遣いやていねいさがあつた。このことと見受けられた。巷には女性が経営に携わっている組織の方が売



意見交換会

り上げの伸びが高いとのデータもあるようだ。ほ場見学の後は会場を移し、3つの班に分かれて意見交換を行った。まずは自己紹介で自分の農業に対する思いを話してもらつたが、学生の中には将来、「就農」、「法人」や、「農家に嫁いでもいい。」という学生もいて、その後の意見交換では青年就農者も先輩農業者(委員)も熱く農業の魅力や農村の実態など、熱く語りあつた。

また農産物の直接販売については、皆の関心も高く、多くの質問があつた。六次産業化の推進が叫ばれている昨今だが、その問題や苦労を知ってもらふには学生には良い機会であつたと思う。

その後、懇親の場もあり、さらに熱く語り合つた半日であつた。

(農業委員 木村 充)

食育・地産地消専門委員会では、幼いうちからお米に慣れ親しんでもらい、お米の大切さやおいしさを伝えていこうと市内各地の保育園等を訪問しており、5回目の実施となりました。

今回はくしびき西部保育園を訪れ、「お米磨ぎ」、「お米炊き」、「おにぎりづくり」の体験をしてもらったほか、「つや姫体操」などを行いました。



11月4日、専門委員会の委員はくしびき西部保育園を訪問し、年長児24人と交流しました。「お米のこともっと知ってもらいたい、大好きになつてもらいたい。」そんな想いから始めた食育教室。5回目となる今回も、元気いっぱいの子供たちと素敵な出会いがありました。

「この機械わかる？」  
初めに、米作りについてパネルを使って説明しました。



お米炊き体験



お米磨ぎ体験

「はい、はい。」と元気な声と一緒にたくさんのお手があります。「そうだね、トラクター。よぐわがるね。」キラキラした目で答えてくれる子供たち。みんなにおいしく食べてもらいたいと農家が愛情込めて一生懸命作っていることを話しました。

「食育・地産地消専門委員会」活動報告

「みんなで作るおにぎりや姫おとぎし」  
くしびき西部保育園で食育教室を開催

次に、おにぎりづくりは米磨ぎ体験から。

「グー・パー、グー・パー」と手を握ったり開いたりしながら磨いでね。」と教えると、「気持ちいい！楽しい！」と笑顔で取り組んでくれ、水も手を添えながら上手に捨てることができました。

米の炊きあがる様子は透



つやひめ体操



おにぎりづくり

明な鍋で観察。ぶくぶく泡が出る様子や、漂う香りを体感してもらいました。  
.....  
「あつちえさげ、気をつけれのう。」

炊き立てのつや姫を子供たちの両手に広げたラップに乗せます。初めは戸惑った様子でしたが、丸や三角はもちろん、いろいろな形のおにぎりを作ってくれました。

そしてオリジナルの「つや姫体操」で元気いっぱい体を動かした後、「いただきます！」とみんなで食卓の子供たちの中には三つも四つも食べる子もいて頼もしい限りです。食事をしながら、好きな食べ物や友達のことなど、たくさんお話をしました。

お別れのあいさつで「ごはん大好きな人！」と質問すると、「はい！」と全員手をあげてくれました。うれしかった！

(農業委員 齋藤英道)

### 営農専門委員会 視察研修報告

営農専門委員会では、本市の農業施策や地域営農活動の参考にしようと10月20日、21日に視察研修を行いました。

#### えちご上越農業協同組合 (新潟県上越市)

新潟県はコシヒカリの産地として有名ですが、米に過度に依存した農業経営からの脱却を後押しするため、えちご上越農協では、直売所、農産物を加工・販売する施設やレストランを設置して園芸作物振興を図っていました。直売所では七百名を超える利用組合員に、マーケティングに基づいた売れる品目などの情報を提供するとともに生育指導も行っているそうです。もちろん農家本人の努力が必要ですが、安心して生産し、出荷できる体制になってい



えちご上越農協

ると思われました。

#### (有)サンライス魚沼 (新潟県魚沼市)

2日目は、中山間地域で地域の担い手として活動している法人です。

元々は「農機具の共同購入をしよう。」と呼びかけあった団体に旧湯之谷村とJAが支援して発足した法人で、減農薬農法と、地域の畜産農家と連携した循環型農業に取り組み、51畝余の経営をしています。

また、補助制度を利用してライスセンター、育苗施設やもちの加工所を建てて



サンライス魚沼

年間就労を可能にしています。

「村で米の実らない田んぼを見たくない。」「会社であれば将来自分の子供が農業を継がなくても・・・」と専務の佐藤さんが法人の意義を話してくださいました。

全国トップブランドの米を中山間地域で、かつ特別栽培米として栽培されていることは並大抵の努力ではできないことと思えました。研修した2カ所ともホームページがあります。ご覧になってみてください。

(農業委員 清野吉喜)

### 農業者年金協会交流会

#### グラントゴルフ大会を開催

10月18日、農業者年金協会交流会グラントゴルフ大会が藤島体育館グラントゴルフ場を会場に、各地域から54名の会員の参加のもと開催されました。

初めに三浦会長より鶴岡市の農業者年金加入状況について説明があり、加入推進を図るうえで、会員のみなさんからもお声掛けをお願いしたいとお話がありました。

その後、12チームに分かれて2コース16ホールをまわり、優勝を目指して熱戦を繰り広げました。参加者からは時折歓声があがり、お互いに声を掛け合いながら、秋晴れの空のもと、楽しんでプレーしていました。大会終了後には懇親会を開催し、それぞれのプレーについて称えあったり、農業者年金の情報を交換した



りしながら、和気あいあいとした雰囲気の中、会員同士の親睦を深めました。来年度も開催する予定です。ので、会員のみなさんぜひご参加ください。

#### 《優勝者》

阿部 久さん

(鶴岡・谷定)

おめでとうございませう！



鶴岡地域の平田集落で農業を営んでいる五十嵐勇輝さんは、新潟大学を卒業後、平成14年に就農し、平成27年より経営移譲されて2年目になる経営者で、妻と子供二人（一男一女）、両親、そして祖父母と四世代同居

**加入しています**

# 農業者年金

鶴岡 平田  
五十嵐 勇輝さん  
(38歳)



の大家族です。

農業経営は水稲640ア、枝豆120ア、砂丘畑大根の加工と手広く、そのうち水稲部門では経営面積の約半分を有機栽培で、残りを減農薬による特別栽培で生産しています。有機栽培では合鴨や紙マルチによる除草対策を行っています。キツネやカラスなどの合鴨の外敵も多く、毎年苦労しているそうです。また紙マルチも強風等ではがされやすいため、田植えには時間をかけて丁寧に植える必要があるなど、慣行栽培と異なる点が多い有機栽培ですが、地域の農業者の理解や協力をいただき、今年も無事に収穫をむかえることができ、本当に感謝しているそうです。

### 農業者年金の魅力

「農業者年金は積立による安定と安心感があるので、リスクの高い経営も、より強気に行えて心強いです。また税制面でも優遇措置が

あるし、私の場合は3割の国庫補助を受けられることは大きなメリットです。さらに自分の積立情報も毎年しっかりと確認でき、運用も安定していて信頼感があります。付与利率についても同様で、農業者年金に大きな信頼を寄せています。」と勇輝さんは話してくれました。

勇輝さんの経営は30年問題やTTP問題にも対応できる強い経営と思われるし、農業に対する姿勢からは、地域の担い手としてこれからも活躍して下さるものと心強い思いがしました。  
(農業委員 鈴木 裕)



## 農業委員会では『アグリランドバンク』で新規就農者を支援します。

『アグリランドバンク』は、新規就農者が農地を確保することはたいへん難しいことから、農地確保の手助けをしようとする事業です。

○具体的には、「希望があれば農地を提供してもよい。」と言ってくれる経営体（新規就農者支援農業者）と、貸してくれる農地を探している新規就農者を仲介して農地の貸し借りを進めようとするものです。

○対象者は、親元就農者を除く認定新規就農者（※）です。詳しくは農業委員会のホームページ（鶴岡市公式ホームページ内）をご覧ください。農業委員会事務局へお問い合わせください。

（※認定新規就農者とは、営農計画を作成し市の認定を受けた新規就農者のことをいいます。）

○新規就農者の育成にご理解をいただき、下記の経営体のみなさんから新規就農者支援農業者に登録していただいております（11月末現在、敬称略）、これからも登録していただける方をお待ちしております。

- (有) 鶴岡協同ファーム (鶴岡・民田)
- (株) アシスト (鶴岡・本田)
- (有) 田和楽 (藤島・小中島)
- 上新田農事組合法人 (藤島・上新田)
- 井上農場 代表 井上 馨 (藤島・渡前)
- (株) ハグロファーム (羽黒・川代)
- (農) あさひの輝き・まんてん (朝日・東岩本)
- (株) あつみ農地保全組合 (温海・湯温海)

○みなさんのお近くに、「農業を始めたいが、農地をどうしたらよいか・・・」とお悩みの方がいらっしゃいましたら、「こんなのがあったよ」とご紹介いただければ大変ありがたいです。

# つるおか大産業まつり2016 ご来場ありがとうございました



## 10月15日・16日

農業委員会では、毎年恒例の「手作り寄せ豆腐のふるまい」、「農産物の販売」などを行いました。たくさんのご来場と笑顔をありがとうございました。



### 「つやひめ体操」

(作詞・振付 Yumi)

つやつや	ひめひめ
つやひめ	
ほかほか	おいしい
つやひめ	
つやつや	ひめひめ
つやひめ	
さめても	おいしい
つやひめ	
つやつや	ひめひめ
つやひめ	
あしたも	たべたい
つやひめ	

5ページ「食育・地産地消専門委員会」事業報告で記載の、園児と一緒に行ったオリジナル体操の歌詞です。振り付けもあります。事務局にお問い合わせください。



### あこがき

昨年十一月、米国の次期大統領にTPP離脱を訴えるトランプ氏選ばれた。この決定により日本の農業はどのような影響を受けるのだろうか。とは言えTPPが発動したとしても分らない事が多く、いずれにしても不安であることには違いない。政権が変わるたびに我々は右往左往しがちだが、日本の農業は、世界一、安心安全で美味しい食物を作れるのだから、それを武器に政府には安定した農業政策を築き上げて欲しいものである【PAPならぬAAA（安心・安全・美味しい・アグリ）戦略とでも言おうか】。

(農業委員 佐々木 貢昌)

○鶴岡分室 25-2111 (代表) ○榊引分室 57-2114 ○羽黒分室 62-2111 (代表)  
○朝日分室 53-2111 (代表) ○温海分室 43-4616

鶴岡市農業委員会事務局

〒999-7696 鶴岡市藤島字笹花25(藤島庁舎内) ☎64-5868(直) FAX.64-5846  
<http://www.city.tsuruoka.lg.jp/sangyo/nougyouinaki/index.html>